

場所・面積 宮城県仙台市、3.28ha

管理目的 海岸林や海岸公園、居久根など、かつて本市東部沿岸地域の風景をなし、震災復興の過程で再構築するみどりについて、市民協働の推進や事業間の連携を図りながら、『ふるさとの杜』として管理に取り組み、仙台市民の新たな心のふるさと、風景とすること。

サイト概要 本サイトを含む仙台市東部沿岸地域のみどりは、東日本大震災により甚大な被害を受け、海岸林を形成していたクロマツ林や、屋敷林として点在していた広葉樹を中心とした雑木林の多くが被害を受けた。
「ふるさとの杜再生プロジェクト」は、市民・NPO・企業等との連携により、30年かけて屋敷林や防災林など東部沿岸地域のみどりの再生を図るプロジェクトであり、第一期（約10年）の取り組みの結果、様々な動植物が見られる健全な生態系が戻ってきた。
今後もプロジェクトを継続することにより、豊かなみどりや防災林の育成が進み、一帯の国有林や貞山運河等と連続性の中で生物多様性の価値が更に増すことが確実である。また、市民参加によりプロジェクトを進めることで、海岸林や屋敷林の文化、震災の教訓や記憶、復興の記録を時代につないでいく、メモリアル事業としての役割も担っている。



土地利用の変遷 本サイトを含む仙台市の沿岸部には、1600年代後半から人の手によって植林されたクロマツの防潮林と、家の周囲を取り囲む屋敷林（居久根：イグネ）があった。この防潮林や居久根は集落や田畑を潮風から守るだけではなく、薪炭やキノコ等の食糧の生産の場として人々に利用されてきたが、東日本大震災で被害を受けた。
本サイトにおいては、沿岸部再構築の一環として、2013年度から市民協働による植樹を開始し、多様な樹種による海岸防災林の造成を行いながら、現在では市民参加型の育樹活動を通し環境教育の場、震災復興のメモリアル事業の場としての利用が行われている。

サイト周辺の環境

サイトの東部は貞山運河や海岸の砂浜及び太平洋が、南北にはクロマツを中心とする海岸防災林がある。東日本大震災で被害を受けた海岸林再構築の植林が現在は完了し、地域の大部分が樹齢10年未満のクロマツ林や雑木林となっているほか、震災後も生き残ったクロマツの高木、貞山運河の水環境など本サイトを含めた一帯の連続性の中で多様な動植物が見られている。西部（陸側）には、水田地帯や東部復興道路等がある。

アピールポイント

本プロジェクトは、震災により被害を受けた海岸林を、市民が主体となって、多様で多くの市民の参加のもと再生し、防災機能や生物多様性環境を維持・管理をしていくプロジェクトである。

海岸防災林が成熟するまでの約30年間にわたって、「植える」から「育てる」「支える」、そして「伝える」「活用する」活動の全てに市民が取り組んでいくことで、市民にとって身近な自然に親しむ場となること、生物多様性の持つ役割を学ぶ場となること、そして震災の記憶をつないでいく場となるなど、文化的な生態系サービス提供の場として機能している。

また自然を基盤として防災機能の向上を図り、気候変動リスクへの適応にも資する、本市の特性を活かした取り組みである。



- 撮影日又は撮影年月：2023年4月
- 写真の説明：申請地で確認された鳥類の例



- 撮影日又は撮影年月：2023年4月
- 写真の説明：申請地で確認された昆虫類の例

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは、市民・NPO・企業等との連携による第一期（約10年）の取り組み等により海辺側にクロマツ林、陸地側にケヤキ、コナラなど広葉樹の混交林が生育しているほか、草地環境や降水後一時的に水たまりができるような地形の凹凸も作り、植林木に加え乾湿両方の草本があることで様々な動物が生息できる多様な環境を整備している。

現在は植林されたクロマツなどの木本に加え、ニホンタンポポなど従来の草本類も多く生育しているほか、湿地性の草本、仙台市が水田の環境指標種と位置付けるアキアカネや環境省が代表的な昆虫20選とするショウリョウバッタ・エンマコオロギなどの昆虫類、ネズミなどの小動物やそれを捕食するキツネなどの中型動物、本市における里地里山の指標種であるモズや減少が懸念されるウグイス・生態系の頂点に位置する猛禽類のミサゴやトビなどの鳥類が確認されるなど、健全な生態系が存する場が形成されている。

【主な植生】

- ・クロマツ植林地、ケヤキ・コナラ・シラカシなどの広葉樹植林地
- ・一部エリアは乾湿双方の草本エリアとして整備

【確認された主な動植物】

- ・ミサゴ（準絶滅危惧種）
- ・ショウリョウバッタ、エンマコオロギ（代表的な昆虫20選 2021年度環境省）
- ・昆虫類22種、鳥類20種、哺乳類2種、両生類2種

※周辺にオオタカの幼鳥、ホンドタヌキ、サギ類等が確認されている



写真の撮影年月：2022年9月

写真の説明：育樹会（+自然に親しむ体験プログラム）の様子

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <p>■ 第一期 2011年～2020年</p> <p>ネットワークを構築しより多くの樹木を植え・育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植樹会や育樹会 ・各団体の緑づくりの活動への参加 <p>■ 第二期 2021年～2030年</p> <p>育樹の輪を育てて、杜とともに成長する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除草、補植、剪定、下刈等 <p>■ 第三期 2031年～2040年</p> <p>市民の手で再生された「ふるさとの杜」を活用し、次世代に伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除伐、間伐、補植、杜を活用した企画の実施、生物多様性の更なる充実 <p>10年ごとに実施状況を振り返り目標を見直す。</p>	<p>【モニタリング対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫類、鳥類、両生類、爬虫類、ほ乳類 <p>【モニタリング場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイト全体 <p>【モニタリング手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物観察会における目視確認等 <p>【実施時期及び頻度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物観察会開催実施に合わせて年に1～2回程度（6～10月）及びその他の管理時 <p>【実施体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台ふるさとの杜再生プロジェクトとして管理し、樹木の生育状況を確認している。 ・人為的な手を加えないことを含む現状の管理措置を継続することが可能であり、その結果、土地の改変が予防され、生物多様性の価値が大きく劣化するおそれがない。 ・育樹会等と組み合わせた市民参加の生き物観察等を適宜実施予定。